

機関番号：15401  
 研究種目：基盤研究（B）  
 研究期間：2008 ～ 2010  
 課題番号：20401042  
 研究課題名（和文）インド・国内周辺部における開発戦略の展開と持続的発展への課題-2つの山岳州の比較  
 研究課題名（英文）Development Strategy and Sustainable Development Issues in Indian Peripheral Regions: Comparison of Two Mountain States  
 研究代表者  
 岡橋 秀典（OKAHASHI HIDENORI）  
 広島大学・大学院文学研究科・教授  
 研究者番号：00150540

研究成果の概要（和文）：本研究は、インドの代表的な低開発地域として、2つの山岳州、ウッタラーカンド州とヒマーチャル・プラデーシュ州をとりあげ、近年の社会経済的変動と今後の発展の可能性を検討した。これらの地域では、経済自由化後、工業化や観光開発により急速な経済の成長が認められる。工業開発は中央政府の工業政策によるところが大きいだが、その効果は平原部に限られている。他方、山岳地域では観光産業の誘致に成功しているが、その雇用量は大きくない。その結果、州内の格差が拡大する動きがみられる点が注意を要する。

研究成果の概要（英文）：This study examined recent socio-economic development and future prospect in Uttarakhand and Himachal Pradesh, which are typical underdeveloped states in India. These regions have accomplished the rapid economic growth mainly based on industrialization and tourism development after the economic liberalization. As for the industrial development, industrial policies of the central government for northern mountain states plays a crucial role, though its effects are limited to plain areas. On the other hand, mountainous areas have attracted tourism industries which employment is not sufficient. We should pay attention to increasing internal disparities in the states.

#### 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2009年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
2010年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
年度			
年度			
総計	12,600,000	3,780,000	16,380,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学

キーワード：人文地理学、インド、グローバリゼーション、国内周辺部、山岳州、開発戦略、持続的発展、農村

#### 1. 研究開始当初の背景

近年、インドはグローバル化の中で急速な経済成長をとげている。このようなインドの発展は、世界的に高く評価され、多くの注目を浴びるようになった。しかし、そこにいくつかの問題が存することも事実である。特に本研究が注目するのは、社会階層間や地域間

の大きな格差と、それらの拡大である。このうち後者は、地域主義的傾向が強く、独立後長く地域間の均衡政策を重視してきたインドにとって、国家の存立にも関わる重大問題と言えよう。

経済自由化後のインドの地域格差については、州を単位とした全国スケールでの定量的

な研究が活発に行われてきた。そこでは、経済自由化後も地域間の格差が拡大を続けていることが指摘されている。富める州はいよいよ豊かになり、貧しい州は停滞を余儀なくされている。しかし、ここで問題となるのは、政府の国土周辺部の貧しい州への政策と地域の開発戦略である。このような点については未だ包括的な検討が行われていない。我々は、科学研究費による共同研究プロジェクト「グローバル化下のインドにおける国土空間構造の変動と国内周辺部問題」(平成17-19年度)において、国内周辺部の動向把握を行い、2000年代に入り北部山岳州に対しインド政府が税の減免を中心とした「新工業化政策」を用意し、州政府もこれに対応した開発戦略を実行に移した結果、巨大な工業空間が山麓部に出現しつつあることを確認した。これは、国内周辺部開発への新たな挑戦とも言え、周辺性の強かったこの地域に大きな変貌を迫るものである。それゆえ、その開発の実態を把握し評価を行うことは、現代インドの地域格差問題を追究する研究にとって緊要の課題となる。

## 2. 研究の目的

本研究では、インドの国内周辺部である山岳州を対象に、開発戦略の展開とそれにとりまなう地域の変動を把握し、それらの評価を短期的な経済効果のみならず持続的発展とも関連づけて行うことを目的とする。インドの経済発展の中で国内周辺部がどのような変貌をとげているのか、それが国、州の開発戦略といかなる関連をもつか、その結果、従属的な経済構造がどのように克服されているのかが大きな検討課題となる。また研究の枠組としては、再編成の過程を構造的に把握しうる「周辺地域」論を採用する。具体的には、地域開発を主導する国および州政府の開発戦略を把握したうえで、開発に伴う基軸産業の発展とその波及効果、および産業発展による労働市場の展開と労働力移動を解明し、最後に村落レベルの調査により、このような開発の影響の下での地域の社会経済的な再編成、土地資源利用や自然生態系の変化など地域構造の変化を多面的に明らかにし、より長期的な持続的発展の観点からも開発戦略の評価を行う。調査地域は、インド北部に広がるヒマラヤ山岳地域の2州、ウッタラカンド州とヒマーチャル・プラデーシュ州である。

## 3. 研究の方法

本研究は3年間のプロジェクトである。初年度(平成20年度)は、中央政府および州政府における資料・統計の収集・分析により2つの山岳州の開発戦略と産業構造変化の解明に努めるとともに、次年度以降の本調査のために、調査対象地の選定、現地研究者との打ち合わせなどの予備調査を行う。平成21

年度と22年度には、ウッタラカンド州とヒマーチャル・プラデーシュ州についてそれぞれ本調査を行う。この調査は、両年とも、山麓部を中心とした開発戦略の実態調査と山岳地域の農村調査に分かれて行い、約1ヶ月のフィールドワークを実施する。

本研究では、国土周辺部の構造変化に関わる重要事項について、それらを専門とする研究者を分担者として組織している。すなわち、工業開発の動向、先端的産業の動向、都市化と住宅開発の進展、リゾート開発の展開と農村変化、農業生産の発展、人的資源開発と労働力移動について研究し、地域の変動を構造的に捉える。詳しくは次の通りである。(1)工業立地の展開と波及効果を明らかにする。国および2州の工業開発政策を把握するとともに、2州内の工業立地、さらに工業発展の基礎となる産業集積の形成状況を把握する。

(2)先端的産業の立地環境と人的資源を明らかにする。IT産業、医薬品産業などの立地の全国的動向を把握するとともに、2州内の立地状況とそれらに関わる人的資源開発について分析する。(3)住宅開発を中心とした都市化を明らかにする。2州の都市化動向を把握するとともに、工業開発に伴う住宅開発の計画および実施状況を明らかにする。(4)人的資源開発と労働力移動を明らかにする。工業開発の基礎となる人的資源開発と労働力移動の実態を2州について把握する。工業労働市場に関わる産業訓練校について概況を把握するとともに、労働力移動に関するセンサス統計を収集して分析する。

(5)リゾート開発と村落社会への影響を明らかにする。経済自由化以後急増している2州における観光開発、リゾート開発の進展状況とその特徴について把握する。(6)商業的農業の展開と村落社会への影響を明らかにする。2州において急速に進行している商業的農業展開の概要を、産地の分布と特徴、出荷先の農産物市場から把握する。

## 4. 研究成果

本研究は、インドの代表的な国内周辺部として北部の2つの山岳州、ウッタラカンド州とヒマーチャル・プラデーシュ州をとりあげ、低開発地域の社会経済的変動と今後の発展の可能性を実証的に明らかにすることを目的として実施した。

その結果判明したことは以下の通りである。インドの近年の経済成長の中でこれら山岳州においても工業化や観光開発により経済の急成長が認められる。両州ともに工業化の進展が特に大きな役割を果たしているが、これは中央政府の北部山岳州向け工業政策とデリー大都市圏への近接性による。ただし、その効果は専ら山麓の平原部に限られている点が重要である。これに対し山岳地域に影響を与え

ているのは、観光開発の進展であり、ホテル等の宿泊施設が急増している。リゾートなどでは州外資本によるものが目立つが、一部に地元資本によるものもあり、中には農家が経営する施設も出現している。このことから観光開発の波及効果は広い範囲に及んでいるといえよう。しかし、このような経済発展の中で、州内の格差が拡大する動きがみられることは注意を要する。持続的な発展という点では問題がある動きであり、開発政策の再検討の必要性も示唆される。

二つの州の間には発展パターンの違いもある。特に山岳地域の農業部門の発展においては両州に大きな差があるので、このような差異が、いかなる要因によるのか、今後追求する必要がある。そしてインド経済全体の中でのこの地域の位置づけも今後の課題となる。

以上のように、近年のインド経済発展の下での地方の動向を総合的に検討したものは他になく、貴重な成果といえる。それゆえ、本研究の成果は近いうちに図書として刊行の予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 13 件)

1. 岡橋秀典・番匠谷省吾・田中健作・チャンド, R., 経済成長下のインドにおけるヒマラヤ山岳農村の変貌-ウッタラカンド州の事例-, 地理科学, 66-1, 査読有, 2011, pp. 1-19.
2. 岡橋秀典・田中健作・ティワリ, P. C., インドの山岳州における工業化と低開発問題-ウッタラカンド州の事例から-, 広島大学現代インド研究-空間と社会, 1, 査読有, 2011, pp. 27-36.
3. 友澤和夫, 台頭する 2000 年代のインド自動車工業とその空間構造, 広島大学現代インド研究-空間と社会, 1, 査読有, 2011, pp. 1-17.
4. 宇根義己, インドにおけるテキスタイルパークの開発と立地特性, 広島大学現代インド研究-空間と社会, 1, 査読有, 2011, pp. 59-78.
5. 由井義通, インドの辺境工業開発地域における都市開発-ウッタラカンド州ルドラプルを事例として-, 都市地理学, 6, 査読有, 2011, pp. 53-62.
6. 由井義通, インドの都市再開発計画, 日本都市学会年報, 43, 査読無, 2010, pp. 280-284.
7. 澤宗則, グローバル経済下のインドにおける空間の再編成-脱領域化と再領域化に着目して-, 人文地理, 62-2, 査読有, 2010, pp. 132-153.
8. 鍛塚賢太郎, アジア産業集積とローカル企業のアップグレード-インド ICT 産業の大都市集積の場合-, 経済地理学年報, 56, 査読有, 2010, pp. 20-37.

9. 由井義通, インドの多重的都市景観-伝統と近代化-, 都市地理学, 5, 査読有, 2010, pp. 41-49.

10. 岡橋秀典, 躍進するインドの光と影-経済自由化後の動向をめぐって-, 立命館地理学, 21, 査読無, 2009, pp. 43-57.

11. 友澤和夫, インドにおけるモータリゼーションとその課題, JAMAGAZINE, 43-8, 査読無, 2009, pp. 9-13.

12. 中條暁仁, インド・ヒマラヤ山麓部における新興ヒルリゾートの地域特性-ウッタラカンド州ノークチアタールを事例として-, 現代南アジアの地域システム, 5, 査読無, 2009, pp. 19-30.

13. 鍛塚賢太郎, 衛星データ「夜の光」でみる南アジアとインド大都市, 現代南アジアの地域システム, 4, 査読無, 2008, pp. 5-8.

[学会発表] (計 16 件)

1. 岡橋秀典, インド北部山岳地域における経済発展と地域格差問題-ウッタラカンド州とヒマーチャル・プラデーシュ州の比較から-, 2011 年日本地理学会春季学術大会, 2011 年 3 月 27 日, 明治大学
2. 由井義通, ヒルステーション・シムラの都市発展, 2011 年日本地理学会春季学術大会, 2011 年 3 月 27 日, 明治大学
3. 友澤和夫, 山岳州ウッタラカンドにおける工業化の進展と IIE ハリドワール, 2011 年日本地理学会春季学術大会, 2011 年 3 月 27 日, 明治大学
4. 澤宗則・中條暁仁, インドの山岳地帯のツーリズムと地域社会の変容-脱領域化と再領域化のパラドックス-, 2011 年日本地理学会春季学術大会, 2011 年 3 月 27 日, 明治大学
5. 鍛塚賢太郎, インド地方都市における ICT 産業立地の現状-チャンディーガル都市圏調査報告, 2011 年日本地理学会春季学術大会, 2011 年 3 月 27 日, 明治大学
6. 宇根義己, インド山岳州における工業団地開発と企業集積要因-ヒマーチャル・プラデーシュ州パディを事例として-, 2011 年日本地理学会春季学術大会, 2011 年 3 月 27 日, 明治大学
7. 岡橋秀典・田中健作・ティワリ, P. C.・シン, R., インド・ヒマラヤの山岳地域における低開発問題と工業化-ウッタラカンド州ビムタール工業団地の事例から-, 2010 年日本地理学会春季学術大会, 2010 年 3 月 27 日, 法政大学
8. 由井義通, インドの工業開発地域における都市開発-ウッタラカンド州ルドラプルを事例として-, 2010 年日本地理学会春季学術大会, 2010 年 3 月 27 日, 法政大学
9. 友澤和夫, ターター・モーターズ社の廉価小型車プロジェクトとベンダー・パーク-インド・ウッタラカンド州, IIE パントナガー

ルを対象に-, 2010年日本地理学会春季学術大会, 2010年3月27日, 法政大学

10. 中條 暁仁・ラワット, P.K, インド・ヒマラヤ山麓部における新興ヒルリゾートの地域特性-ウッタラカンド州ノークチアタールを事例として-, 2010年日本地理学会春季学術大会, 2010年3月27日, 法政大学

11. 鍬塚 賢太郎, インド地方都市における ICT 産業立地の現状-ウッタラカンド州都デヘラードゥーン調査報告-, 2010年日本地理学会春季学術大会, 2010年3月27日, 法政大学

12. 由井 義通, インドの都市再開発計画 (JNNURM), 日本都市学会, 2009年10月24日, 名古屋都市センター

13. 由井 義通, インドにおける国家的都市再開発プログラム, 中四国都市学会・中四国歴史学地理学協会・地域地理科学学会共催大会, 2008年11月30日, 岡山市

14. 岡橋 秀典, グローバリゼーション下のインドにおける国土空間構造の変動-フィールドワークによる共同研究の成果をふりかえって-, 経済地理学会西南支部例会, 2008年8月2日, 広島市

15. 澤 宗則, インド農村の変化-グローバル化と関連させて-, 第41回南アジア研究集会, 2008年7月20日, 岐阜市

16. 岡橋 秀典, インドヒマラヤの1山村集落における住民の就業形態と世帯経済-経済成長下の動向をめぐって-, 地理科学学会, 2008年6月7日, 広島大学

[図書] (計1件)

Okahashi, H. (ed.), Manohar, New Delhi., *Emerging New Industrial Spaces and Regional Developments in India*, 2008, 197 ページ

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

岡橋 秀典 (OKAHASHI HIDENORI)  
広島大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号: 00150540

### (2) 研究分担者

友澤 和夫 (TOMOZAWA KAZUO)  
広島大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号: 40227640

由井 義通 (YUI YOSHIMICHI)  
広島大学・大学院教育学研究科・教授  
研究者番号: 80243525

澤 宗則 (SAWA MUNENORI)  
神戸大学・大学院人間発達環境学研究科  
准教授  
研究者番号: 40235453

鍬塚 賢太郎 (KUWATUKA KENTAROU)  
琉球大学・法文学部・准教授  
研究者番号: 40346466

### (3) 連携研究者

中條 暁仁 (NAKAJYO AKIHITO)  
静岡大学・教育学部・准教授  
研究者番号: 40432190

宇根 義己 (UNE YOSHIMI)  
広島大学・現代インド研究センター・  
特任助教  
研究者番号: 40585056